

高温に伴う農作物の被害防止対策の徹底について

令和6年8月8日現在、全国的に高温の状態が続いています。これにより農作物の生育ステージに急激な前進や高温障害の発生が想定される場合は、農作業計画の適切な見直しや農業資材等の確保、技術対策の実施に十分に留意してください。

また、高温に伴って発生が助長される病害虫については、滋賀県病害虫防除所の病害虫発生予察情報を参考に適期防除に努めてください。

熱中症対策など、健康への配慮に十分な注意をはらっていただき、可能な範囲での対応をお願いします。

<作目別の対策>

1. 水稲

登熟期における稲体の活力の凋落を防ぐため、以下の点に留意しましょう。

- ① 葉色の低下が見られる場合は、登熟期間中の適切な葉色を維持するため、追肥の施用を行いましょう。
- ② 出穂前後各3週間は水不足とならないよう、湛水による水分供給を心掛け、収穫前の早期落水は避けてください。収穫作業については、高温によって登熟期間が短縮し、収穫適期が通常より早まる可能性があるため、出穂期以降の積算気温や籾の状態に十分注意し、刈り遅れとならないよう収穫適期に努めましょう。

2. 大豆

発芽時や出芽後の干ばつは、初期生育が遅延するほか、開花期から登熟初期における干ばつは、落花や落莢の増加、着莢率の低下、不稔莢の増加、着粒重の減少を招くため、地温の低い時間帯を狙ってうね間かん水等を行い、土壌水分の保持に努めましょう。

3. 野菜

(1) 全般

- ① かん水は、生育状態等を十分考慮し、地温の低い時間帯（早朝・夕方）に実施しましょう。（かん水が高温となって作物被害につながることを避ける。）

施設内でのかん水は、空気中の湿度が高くなることから、夜間や曇雨天の日中には、通風するなどして湿度を下げましょう。また、地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るため、地温抑制マルチや敷わら等を活用しましょう。

② 施設栽培では、妻面や側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制しましょう。(遮光は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効)。循環扇を活用して、局所的な高温・高湿空気の滞留を防ぎ、室内温度・湿度の均一化をはかりましょう。このとき天窓の開閉や換気扇等を活用した換気、遮光資材、細霧冷房等の対策と併用することが重要です。

③ 収穫・調製においては、品温が上がらないよう早朝に収穫を行うとともに、速やかに調製作業を行い予冷庫に入れ品質低下を抑えましょう。

(2) 特に葉茎菜類

① 乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用しましょう。

② 多湿による軟腐病が発生するおそれがあることから畝間かん水を控えましょう。

(3) 特に果菜類

① 不良果の摘果、若採りを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努めましょう。

② 老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の蒸発抑制に努めましょう。

③ カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行いましょう。

4. 果樹

(1) 全般

高温で土壌が乾燥すると、葉などからの蒸散作用が抑えられ高温障害が助長されるため、土壌が乾燥しないよう十分なかん水を行いましょう。

(2) 特にこれから収穫を迎える果実

高温によって果実の日焼けが発生しやすい園地においては、各種資材による遮光等の対策を実施しましょう。また、着色の遅延に伴い収穫時期が遅れ、果実が過熟とならないよう、糖度や食味の確認をしつつ適期収穫に努めましょう。

① ぶどう

高品質果実生産に向けては、天候条件や着果位置を十分に確認した上で、摘葉や反射シートを活用による適切な光環境確保の取組によって、着色を促しましょう。

5. 花き

(1) かん水は、ほ場条件や品目、生育状態等を十分考慮し、早朝・夕方に実施しましょう。施設内でのかん水は、湿度が高くなりやすくなることから、夜間や曇雨天の日中には通風するなどして湿度を下げましょう。

(2) 切り花については、朝・夕の気温の低い時間帯に採花し、常温で長時間放置しないようにしましょう。また、品質保持剤を活用し、品質の維持に努めましょう。

(3) 施設栽培の花きについては、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面・天窓を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用しましょう。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努めましょう。

6. 園芸用施設

施設栽培は、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制します。遮光資材は、果実の日焼けや葉やけの防止にも有効です。循環扇は、局所的な高温・高湿空気の滞留を防ぎ、室内温度・湿度の均一化が図られるとともに、作業快適性の向上が期待できます。さらに、天窓の開閉や換気扇等を活用した換気、遮光資材、細霧冷房等の対策と併用することが重要です。

7. 茶

(1) 急激な茶芽の生育により摘採適期から遅れることがないように、茶園巡回による生育状況の把握に努め、茶工場の処理能力を考慮した計画的な摘採を行いましょ。また、摘採後の生葉は、直射日光や高温条件下に晒さないよう可能な限り速やかに茶工場へ運搬するとともに、工場到着後は速やかに生葉コンテナ等に移し葉温を下げ、葉傷みとならないように留意しましょう。

(2) 摘採後の茶園においては、周辺茶園の摘採状況と病害虫の発生状況等を把握し、適期防除に努めましょう。

8. 飼料作物

① 青刈りとうもろこし等については、必要に応じ、コストに配慮しつつかん水に努めるとともに、生育の回復が困難と見込まれる場合は、早期に収穫を行うなど品質低下の防止に努めましょう。

② 播種を行う場合は、干ばつによる乾燥で種子の発芽・定着率が低下するおそれがあるため、覆土・鎮圧の適正な実施に努めましょう。